

インターンシップの取り組み —アジア人財資金構想における役割—

村上和義

橋本智

MURAKAMI, Kazuyoshi

HASHIMOTO, Satoshi

徳島大学国際センター

要旨：

アジア人財資金構想事業において、インターンシップは重要な役割を占める。企業内での実体験は、留学生に日本で生活する社会人として必要な特質や能力を自覚させ、専門分野の勉強・研究だけでなく日本語能力を伸ばすための一層の動機づけを与える。一方、参加企業を開拓することや学生の専門とのマッチングなど、多くの課題も見られる。さらに、事業の「自立化」に向けての課題も多い。

キーワード：アジア人財、インターンシップ、社会人基礎力

1. アジア人財コースについて

アジア人財資金構想は、経済産業省の支援のもと、日本と世界各国との相互理解や経済連携を強めそれらの国々との懸け橋となるような優秀な人材を育成することを目的とした事業である。徳島大学では、経済産業省四国生産性本部からの委託を受け、大学として平成20年度から高度実践留學生育成事業に参加している。

アジア人財資金構想（以下、アジア人財）では、主に次の四つを大きな柱にしている。

- ① 産学連携専門教育
- ② ビジネス日本語教育
- ③ 日本ビジネス教育
- ④ 就職支援等のプログラムの提供
（『アジア人財資金構想』）

①の項目に関しては「高度専門留學生育成事業」にのみ適用されるため、本学でのアジア人財事業では、②から④までのものが中心になっている。

徳島大学では、平成20年度（第1期生）に5名、21年度（第2期生）に5名が参加し、主に週3回の授業を行っている。授業は、AOTSの共通カリキュラムマネージメントセンターが作成した教材を、本学のアジア人財コースに合わせてカスタマイズしたものを使って主に行われている。

2. インターンシップの位置づけ

アジア人財は、優秀な留學生が国内の企業や海外の日系企業に就職するためのサポートを行う。それで、「インターンシップ」はアジア

人財のコースでは重要な役割を担っている。『アジア人財資金構想』パンフレットには、インターンシップに関して、次のように説明されている。

コンソーシアム参加企業のニーズと留學生の資質・専攻・ニーズをマッチングすると共に、インターンシップの進捗状況の確認や事後のフォローアップなどを行って、実践的な能力を効率的に身につけるインターンシップを実施します。

通常、インターンシップは「学生が自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」（『インターンシップ・ガイドブック』）であり、大学が正規の教育課程として、あるいは行事の一環として行ったり、インターンシップ・プログラムに個人で参加する場合などがある。インターンシップが直接就職活動につながるわけではないが、インターンシップを経験することで学生は実体験に基づいた多くのことを学べる。

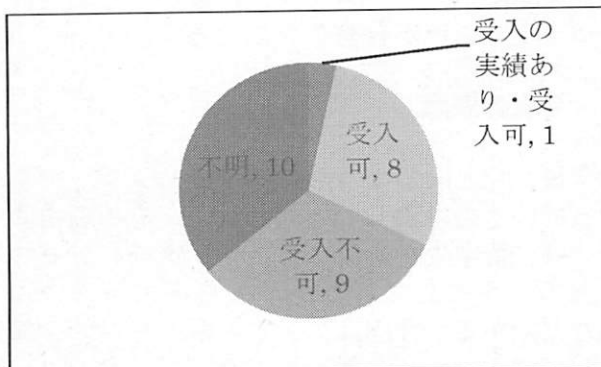
アジア人財コースに参加している留學生は留學生であるため、日本人との円滑なコミュニケーションの方法を学ぶ必要がある。また、日本人にとっては常識だと思えることも、留學生にとってはなじみのないものも少なくない。特に会社内でのビジネスマナーや習慣などは、大学の講義では学べないものであり、それを実体験できるインターンシップは非常に貴重なものである。インターンシップは「社会人基礎力」—例えば、「働きかけ力」、「傾聴力」や「規律性」など—といわれる能力を学生に再認識させ、それらを身につけるよう動機づけを与える良い機会となる。

3. 徳島大学におけるインターンシップ

3.1 キャリアコーディネーターの役割

徳島大学のアジア人財事業ではキャリアコーディネーターを一人配置し、就職支援やインターンシップの実施をおこなっている。このキャリアコーディネーターが徳島県内企業を中心に企業訪問を行い、アジア人財の内容の理解を図り、インターンシップの受け入れを要請した。参加学生には専門性と将来の就職希望職種をヒアリングし、可能な限りインターンシップ先企業とのマッチングに努めた。

平成21年度には28社を訪問した。その中で留学生のインターンシップ受け入れを前向きに検討してくれる企業は8社あった。訪問した企業の中には、もともとインターンシップの日本人学生を受け入れていない、あるいは受け入れているが日本人学生のみ可能といった企業があった。現時点では留学生のインターンシップの受け入れ企業は少ないものの、インターンシップ学生の受け入れ方法が分からない、どのようなプログラムを提供すればいいのかわからないといった声も聞かれ、大学側から具体的な雛型を提示するといった方策をとることによって、インターンシップ受け入れの企業を増やすこともできると考えられる。



3.2 インターンシップの実施

3.2.1 実施の流れ

平成21年度のインターンシップは次のように行われた。

① 受入れ企業開拓

昨年度開拓した県内企業との一層の親密化を目指した。本年度は、国際業務に係る企業としてジェトロ徳島の情報を活用し、海外進出企業や貿易取引企業を中心にキャリアコーディネーターが訪問依頼した。

② マッチング

学生面談の実施、学生のヒアリングの後、専攻科目、研究内容によりインターンシップ実施企業を検討した。就職希望業種とのマッチングを図った。

③ 参加学生への指導

経済産業省作成の留学生インターンシップ支援マニュアルを活用した。また、通常の授業では、AOTSが作成した教材「B2 インターンシップ・プロジェクト」を使って、インターンシップに関する指導を行った。内容は、インターンシップをする理由、体験談、基本的なマナー（言葉の使い方）、ビジネスマナー、敬語、手紙の書き方などである。ロールプレイを交えながら、実際的な場面を想定して授業を行った。

学生には履歴書の書き方を指導し、それを受け入れ企業に提出した。合わせて、参加申込書を書き、誓約書に署名し提出した（参加申込書及び誓約書は本稿末に添付）。

④ インターンシップ受け入れ調整と準備

当初、県内大手企業にインターンシップの受け入れを依頼していたが、直前になってインフルエンザの流行により、業種上安全第一ということで中止となった。急遽、別の企業に受け入れを依頼した。また、学生の専攻科目により、電力関係と建設コンサルタントの会社でも実施することにした。実施直前には、学生に対して日誌の記録の仕方などを含めた最終的な説明を行った。

⑤ インターンシップ期間中

インターンシップ初日はキャリアコーディネーターが受け入れ企業を訪問し、期間中の指導を依頼した。留学生には積極的に質問して、日本企業をよりよく理解するよう指導した。

⑥ インターンシップ事後フォロー

留学生からインターンシップ日誌と感想を報告書にて作成してもらった。また、インターンシップ参加者の報告会を10月23日に開催した「アジア人財資金構想留学生就職支援フォーラム」において実施した。当日は、インターンシップ受け入れ企業の担当者を招いて、インターンシップ受け入れの感想を直接ご報告いただいた。

⑦ インターンシップ修了のお礼

インターンシップ終了後、企業へキャリアコーディネーターが直接訪問し、会社の代表者、研修担当者に感謝の意を表すと共に、今後の支援を依頼した。

3.2.2 実施日と内容

前述のとおり、本年度4名が参加する予定だったインターンシップはインフルエンザの影響で、企業から開始数日前に中止の通知があり、急遽別の企業にお願いすることになった。

平成21年度のインターンシップの実施は次のとおりである。

- ① 平成21年8月31日～9月4日 1名
研修概要：
自分の専門に関する実験を行い、社員の前で実験結果をプレゼンテーションした。
- ② 平成21年9月7日～9月9日 4名
研修概要：国際貿易の基礎的知識を学び、貿易の各書類の作成を行った。
- ③ 平成21年8月24日～8月28日 1名
研修概要：実験調査報告書に関する勉強とデータ分析を行い、その結果を発表した。

4. 学生の振り返り

インターンシップ終了後に、インターンシップ全体に関して学生にコメント・感想を書いたもらった。その内容は以下のとおりである。

①会社・仕事に関して

- 日本企業は人間性を大事にし、科学技術を重視していることを学んだ。
- 実験のプロセスおよびやり方に対して、実質的な認識ができた。
- 日本人の仕事に対しての真面目な態度・謙虚な気持ちが勉強になった。
- 短時間に仕事を仕上げるために、報告すること、締切りを守ること、相談することの大切さを学んだ。
- 素晴らしい研究の雰囲気と研究に対する熱意を感じた。
- 仕事には高い責任感が必要であることを学んだ。
- 中小企業にも高い経営能力と世界に通用するような技術力があることが分かった。
- コツコツ働けばそれだけ収穫できると言われるが、辛いことも耐える能力が必要だと思った。
- 人の名前をしっかりと覚えるといった、社会人としてのマナーをしっかりと身につけた。

②自分自身に関して

- 社会人としての基礎的マナーがきちんとできるようにしたい。
- 自分のミスで他人に負担をかけないように気を付けたい。

- 実際の職場を体験して、学生という立場の甘さを痛感した。
- 将来は研究者になりたいが、今は能力がまだまだ足りないと感じた。
- 専門の基礎知識と、日本語でのコミュニケーション能力不足である。
- 自分の強みをもっと磨いて、就職活動の武器にしたい。
- ビジネスマナーとコミュニケーション能力のアップを図りたい。
- 日本語をしっかりと勉強し、日本の会社に就職するために頑張りたい。

コメントから分かることは、学生たちが日本の会社で実際に働く日本人を見て、彼らのまじめさ、真剣さ、責任感などの、社会人として求められる能力を認識できたことである。これは、大学の授業やゼミでは十分学ぶことのできない貴重な体験であり、インターンシップを行う意義でもある。

加えて、インターンシップ後の感想で多かったのは、自分たちの日本語能力の未熟さである。学生であれば日常会話ができ、教員や友人と専門の話がある程度できればよいが、日本の企業に就職し日本人とともに働く際には、かなりの日本語能力が求められる。頭では分かっているが、実際にインターンシップに参加することによってそのことが自覚できただろう。

5. 今後の課題

今後、今と同じよう形でインターンシップを行っていくのは難しいと思われる。その理由の一つは、留学生を対象にしたインターンシップをどのようにして行うかがまだ定まっていないことである。今回はアジア人財コースの一環として行ったため、キャリアコーディネーターや指導教員がサポートできたが、アジア人財のプロジェクトが終了したときに、どの部署がどういった方法で行うのか。つまりアジア人財の予算終了後の「自立化」に向けて、どうインターンシップを位置付けるかを検討しなければならない。大学としては留学生を積極的に受け入れる体制にあるために、「入口」の部分は整備されてきている。一方、留学生の卒業、研究科終了後の支援、つまり「出口」の部分の体制整備にもっと目を向けている必要があるだろう。

また別の問題は、受け入れをお願いする企業を探すことである。まず、一般的なインターンシップ自体を受け入れている企業があまり多

くない。要請がない、必要を感じない、効果が期待できない、どのようにしたらいいのか方法が分からない、などといった理由でこれまで受け入れをしておらず、これからもその予定がないと答える企業が見られる。さらに、日本人学生は受け入れていても、留学生の受け入れ実績もないし、これからも受け入れる予定はない、と回答する企業も数社あった。日本文化をまだ十分に把握していない留学生にとっては、企業といった実社会を体験することは教科書を読むよりはるかに効果的である。一方で、受け入れる側の企業の心配も理解できる。留学生を対象にしたインターンシップを地元企業との間で引き続き行うのであれば、企業への理解を求める取り組みをさらに進めていく必要があるだろう。

別の課題は、学生の専門と企業がうまくマッチングしないことである。学生が地元の徳島地域でインターンシップをしようとした場合、学生の研究の専門とその分野に近い企業を見つけるのは難しい。そのような場合、自分の専門ではないところにインターンシップに行き、一般的な説明や実習を受けることになる。その際、学生側の動機づけと企業側の負担に問題が生じる可能性がある。いつも学生の専門に合うインターンシップ先が見つかるわけではないので、そのような場合、どうすれば効果的なインターンシップができるかを検討すべきだろう。

本学では留学生関連の事業として、国際センターが請けおい、授業、就職支援、インターンシップなどを行った。今後は、教育内容に関しては、共通教育など既存の授業に内容を移し、より多くの留学生もこのプログラムから学べる機会を作っていく。一方、就職支援、インターンシップの部分においては、本学内の就職支援室など他部局との連携も積極的に図り、留学生に対する支援体制を拡充していきたい。

【参考資料】

- 『アジア人財資金構想』 (2009) アジア人財資金構想プロジェクトサポートセンター
 福島直樹・尾方僚 (2000) 『ホントに就職する前に「やりたい仕事」に挑戦できる！インターンシップ』 学生援護会
 文部省 (2000) 『インターンシップ・ガイドブック』 ぎょうせい

【資料1】

平成21年度インターンシップ受入れ企業開拓

製造業： 医薬品(4)、建設資材(3)
 繊維製品(4)、電気・機械(4)
 食料品(1)、紙・パルプ(1)
 木材製品(1)、その他(3)

商業： 卸・小売業(2)

情報通信業： 情報(1)

金融・保険業： 銀行(1)

サービス業： サービス(3)

合計 28 社

【資料2】

インターンシップ参加申込書

平成 年 月 日

| | | | | |
|---------------------------------|--|---------|-----|--|
| 学部 | | 学科 | 学 年 | |
| 大学院 | | 研究科・教育部 | 課程 | 学籍番号 |
| ふりがな 氏 名 | | | | 性 別 男 ・ 女 |
| 現住所 (マンション名等 まで詳細に 明記) | 〒 - 携帯TEL () - 自宅TEL () - FAX () - | | | 写 真 3×4 cm程度。 上半身。スナッ プ写真も可。裏 面に学籍番号・ 氏名を記入のこと 。 |
| 緊 急 連絡先 (親元等) | 〒 - Tel () - | | | |

| | |
|-------------------|---------------------------------------|
| 授業科目名 | |
| インターンシップ 実施企業名 | |
| 職 種 | 企画・調査・研究・開発・生産・流通・営業・販売・経理 その他 () |

(注) 職種の欄には○印を付けてください。(複数回答可)

| |
|-----------|
| 1. 参加理由 |
| 2. 学びたい事柄 |

| |
|------------------------|
| 資格・特技等 (パソコン・ワープロ・英検等) |
|------------------------|

※ 本申込書は、インターンシップのみに使用し、他の目的には一切使用しません。
氏名等の内容については、徳島大学及び受入企業等において使用するものとします。

【資料 3】

誓 約 書

平成 年 月 日

殿

徳島大学 学部 学科
氏 名 _____

私は貴社（機関）において実習するに当たり、下記の事項を厳守することを誓います。

記

1. 貴社（機関）の就業規則及びこれをはじめとする諸規則に従う。
2. 貴社（機関）の諸規則を守り、管理、監督の指示に従う。
3. 貴社（機関）の名誉を毀損するような言動は行わない。
4. 貴社（機関）の営む事業を阻害するような言動は行わない。
5. 実習上知り得た貴社（機関）の機密は、一切漏らさない。
6. 故意または過失により、貴社（機関）に対し損害を与えた場合は、直ちに弁償する。
7. 自己の不注意により、万一災害を受けた場合は、貴社（機関）に迷惑をかけること
なく、自己の責任において処理する。